

「潜在性結核感染治療実態に関する研究」に  
関係する患者さま、ご家族の皆様へ

当院では「潜在性結核感染治療実態に関する研究」との調査研究を行っています。これは結核療法研究協議会による全国調査の一環として行われるものです。わが国での結核罹患率は減少傾向にありますが、今後さらに罹患率を低下させるためには、結核に感染しているが発病はしていない状態（この状態を“潜在性結核感染”といいます）の人に対して抗結核薬による治療を行い、活動性結核の発症を予防すること（この治療を“潜在性結核感染治療”といいます）が重要となります。この研究は、わが国の潜在性結核感染治療の実態について全国調査を行い、具体的にどのような治療が行われているか、治療による副作用はどの程度あるのか、活動性結核の予防効果はどれくらいあるのか、等につき明らかにするものです。これにより、今後より有効な潜在性結核感染治療を行うための有用な情報が得られることが期待されます。

〔調査の対象となる患者さま〕

2014年と2015年に、当院で潜在性結核感染と診断され抗結核薬による治療が開始された患者さまが対象となります。

〔調査方法〕

患者さまのカルテ等の記録をもとに調査いたします。本調査では、患者さまに新たなご負担をおかけすることはありません。

〔患者さまのプライバシーに関して〕

プライバシー・個人情報厳重に守られます。お名前、生年月日など患者さまを特定できる情報が外に出ることは決してありません。

ご不明な点がございましたら、以下に示す本調査の研究代表者までお問い合わせください。また、この研究にカルテ情報を利用することをご了解頂けない場合も以下までご連絡ください。

〒591-8555 大阪府堺市北区長曾根町 1180  
国立病院機構近畿中央胸部疾患センター  
臨床研究センター 感染症研究部  
露口一成  
TEL: 072-252-3021, FAX: 072-251-1372

なおこの調査は病院外の専門家の方を含んだ臨床試験審査委員会（IRB）における厳重な審査・承認をうけて実施しています。